

持続的進化へのドライビング・フォース — 新規技術への挑戦

Driving Force for Continuous Evolution
— A Challenge to New Technologies

取締役
CM研究所長
藪田元志
Motoshi Yabuta



研究・開発とは夢のある高い目標に向かってチャレンジすることです。IT、ナノテクノロジー、生命科学などの分野における進化は目覚ましいものがあり、より明るい未来への可能性も高まってきています。白川先生、野依先生、小柴先生のノーベル賞受賞、更に企業研究所からの田中耕一氏の受賞は、科学技術に対してより一層の興味と期待感を沸き起こすきっかけとなり、また私たち企業人、化学分野に携わる全ての人々に自信と誇りを思い起こさせてくれました。一方、日本経済は低迷、テロを契機とする中東地域の紛争再燃など不安な要素が渦巻いています。このような要素を払拭し企業を成長させるために必要なことは持続的進化をしていくことです。技術者一人一人が意識改革を進め、大きく進化する企業を創りあげていくための一翼を担わなくてはなりません。また、自ら改革の先頭にたち成果を上げるチェンジリーダーとしての自覚を強く持ち世界に通じる技術開発を目指したいと考えています。

さて、年に2号のペースで発行しております『塗料の研究』は、今回で140号を迎えました。ひとえに皆様方の日頃のご愛顧とご指導の賜物と心から感謝申し上げます。

コーティングは物品表面の保護と美粧といった古典的イメージから、「複合機能性膜」としての位置付けに急速に進化しつつあります。例えば、建物の断熱や調湿、室内空気中の

有害物や各種の“ニオイ”物質の吸収と無毒化、黄色ブドウ状球菌などの細菌やカビ類の繁殖抑制、電磁波吸収等、様々な用途への複合機能性材料として位置付けられつつあります。

弊社は持続可能な発展をスローガンとしての地球温暖化防止や環境汚染への配慮をより一層進めるために全社的にISO14001の認証を取得しており、開発センターでも塗料の開発段階、塗装工程、及び塗膜のライフサイクルに対して責任ある関与ができるよう取り組んでおります。また“コーティングテクノロジーは環境テクノロジーそのものである”との再認識のもと、その開発の効率を高めることを目的として、2002年度には研究開発体制の大改革を行い各種先端技術遺伝子を塗料に組み込むことや、コーティングテクノロジーを基盤とした新たな事業の創生にも取り組んでおります。

弊社の新規技術開発力に対してより大きい、より高次元の期待感、すなわち“ワクワク感”を抱いて頂けます様に、国内外の関連・協力会社ともども力を合わせて邁進する所存でありますので、より一層のご愛顧と、ご指導を賜りたくお願い申し上げます。

『塗料の研究』も私共の新たな決意に沿って、より広く、より深い内容に進化し続けていかなければならないと考えております。